

モバイルカリングによるニホンジカ捕獲の取り組み

〔技術普及課・南信署〕鳥獣被害防止対策として昨年度から南信森林管理署管内（伊那市長谷黒河内・浦国有林）で取り組んでいる「森林鳥獣被害対策技術高度化実証事業」(※)において、今年度は、中部局管内での初の取り組みとして「モバイルカリング」による捕獲を行いました。モバイルカリングは、林道沿線において餌付けにより昼間出没したニホンジカを車両に乗車した射手が銃器で狙撃し捕獲する方法です。



事前打ち合わせ

実施場所は、ニホンジカの越冬地で、車両や人の出入りが制限されている箇所、また、ニホンジカの警戒心が低いと想定される箇所などを候補として検討し、浦国有林内で取り組むこととしました。

まず、10月15日から餌付けを行いニホンジカの出没状況を確認し、11月4日から6日、10日から12日の計6日間捕獲を行いました。捕獲できたニホンジカは10頭でした。捕獲頭数が思いのほか少なかった原因は、餌による誘引効果が低かったことによるものと考えています。

今回の取り組みに当たっては、長野県、地元自治体及び猟友会に理解と協力をいただいたほか、銃刀法、道交法等による規制や手続きについて県警本部と地元警察署に相談に乗っていただきました。深く感謝申し上げます。

浦国有林は、南アルプス（仙丈ヶ岳など）の一角を占め、夏場高山帯に生息するニホンジカが三峰川林道まで下って越冬している箇所になっていることから、ここで捕獲することにより夏場に高山帯への移動が少なくなり、高山植物被害が軽減されることを期待しています。



捕獲したニホンジカを計測

※鳥獣被害の防止に向けてモデル地区を設定し、地域の農林業関係者と連携を図りながら、シャープシューティング等、様々な技術を効果的に組み合わせた対策を実証するもの。（黒河内国有林では、移動式囲いワナによる捕獲実証にも取り組んでいます。）